

映画『風と共に去りぬ』(*Gone with the Wind*) およびテレビ番組『エイモス&アンディ』(*Amos & Andy*) に見るマミーのステレオタイプ

扱う作品1 *Gone with the Wind* (1939)

*見る場面 DVD 7分50秒~8分53秒、15分28秒~17分50秒

(<https://www.youtube.com/watch?v=FZ7r2OVu1ss> 約2分30秒)

*登場するステレオタイプ：sassy mammy (生意気な乳母)

「マミー」 忠実な黒人奴隷でスカーレットの乳母でもあるマミーというキャラクター。スカーレットを思って礼儀について口やかましく言う。

体の大きい黒人のメイド「マミー」のおかげで白人のヒロインが更に肌色が白く、華奢で美しく見える。マミーはヒロインの引き立て役である。また、怒っているように喋り、説教がましいことをズバズバと言うところはコミカルであり、“sassy mammy”のステレオタイプとすることができる。

扱う作品2 “Quo Vadis” *Amos & Andy* (1951)

*見る場面 TVシリーズ『エイモス&アンディ』の“Quo Vadis”の回より(約1分30秒)

https://www.youtube.com/watch?v=h3APySZ43is&list=PLYoSduiH_U6p3zitWsPJET1EMLYCSzMF&index=10

*登場するステレオタイプ：「マミーの発展系」「いつも怒っている強い黒人女性」

サファイア・スティーブンス(Sapphire Stevens)は、夫のジョージ“キングフィッシュ”スティーブンス(George “Kingfish” Stevens)と暮らしているオニのような妻。

夫に対して「仕事の邪魔はさせない」と言うところや、夫が何か言おうとしてもそれを遮って自分が言いたいことを怒りながらまくし立てるところから、「いつも怒っている強い黒人女性」「マミーの発展系」のステレオタイプとすることができる。

参考文献

赤尾千波 (2015). 『アメリカ映画に見る黒人ステレオタイプ—『国民の創生』から『アバター』まで—』 富山大学出版会 pp.20-23